

■高柳光寿 歴史家，国史学者。敗戦後の歴史観の動揺に対し，日本歴史学会を創設し，{人物叢書}などを始めた。

たかやなぎみつとし

大本教・・・1892＝ 静岡県敷数郡浜松町元魚(浜松市元魚町)で，松尾神社の神主の長男に生まれる。

日清戦争始・1894＝ 2歳：

田中正造直訴1901＝ 9歳：

日露戦争終・1905＝13歳：

韓国併合・・・1910＝18歳：

明治天皇没・1912＝20歳：

第一次大戦始1914＝22歳：国学院大学国史科卒業し，

民本主義・・・1916＝24歳：東京帝国大学史料編纂掛となる。

ㄱ 勝仁条約・1919＝27歳：

原敬首相暗殺1921＝29歳：

円本時代始・1926＝34歳：史料編纂官に任じられ，史料編纂事業に従事，

共産党事件・1928＝36歳：主として「大日本史料」の安土桃山時代の編纂を担当するとともに，同所における各種の事業に参画・尽捧して行く。

満州事変・・・1931＝39歳：

日中戦争始・1937＝45歳：

日米開戦・・・1941＝49歳：「日本人の大陸発展史」，

敗戦・・・1945＝53歳：

新憲法公布・1946＝54歳：

極東裁判決・1948＝56歳：*日本歴史に対する不信と動揺のきわめて激しかった際に，同志とはかつて日本歴史学会を創設し，みずから会長となって月刊誌{日本歴史}の編集にあたるとともに，同学会の事業として{人物叢書}その他の歴史書編集・発行の陣頭指揮にあたり，学界のみならず広くわが国民の歴史知識の向上と普及とに貢献する。この間，国学院大学・日本大学・大正大学などに出講して後進の育成に努める。

独立回復・・・1951＝59歳：

メーデー事件・1952＝60歳：37年務めてきた東大史料編纂官を定年退職。鎌倉市史編纂主任となり，その総説編を単独執筆，

55年体制始・1955＝63歳：「足利尊氏」，

ｲﾝｽﾀﾝﾄﾒﾝ・1958＝66歳：人物叢書「明智光秀」。翌々年にかけて「戦国戦記1～4」，

美智子妃・・・1959＝67歳：*全6巻に及ぶ「鎌倉市史」編纂事業を完了。総説編により国学院大学から文学博士の学位を受けて，

安保闘争・・・1960＝68歳：

全国総合計画1962＝70歳：「青史端紅」「戦国の人々」，

東京初光ヶ 1964＝72歳：

いざなぎ景気1966＝74歳：「戦国史談」，

美濃部都知事1967＝75歳：「源義経」，

全共闘・・・1969＝77歳：東京都中野区の自宅において_病没した。